

あなたはこんな時 第4回 ベットの里親探しについてのアドバイス

古木 昌代

最後まで保護者になってくれますか？

飼い主が不妊手術を怠ったため望まれずに生まれてきた仔犬・仔猫やホームレスになったペット達に暖かい家庭を見つけてやるための里親探しは、我々の大切な任務の一つです。組織に属していなくても個人でこうした活動しておられる方は少なくありません。インターネットのホームページやミニコミ誌には毎回多くの「ペット差し上げます」情報が掲載されています。しかし、皆さんは名乗り出た希望者がペットの里親として合格か否かをどのような基準で判断されているのでしょうか。これは里子に出される動物にとってはこの上なく重要なことです。なにしろ動物自身は貰われる相手を選べず、そして貰ってくれた里親さん次第でこれらの運命が決まるのですから…。



ンシップなど正しい飼育管理の下で飼われるかどうかを判断し、必要ならばお宅まで伺ってホームチェックやアドバイスをした上で里親になって載っています。

中には「たかが犬1匹貰うのにこんなにうるさい事を言われるのならもういらない」と立腹して帰られる方や、アークの支援者のなかにも「こんなに厳しくしてはなかなか

貰い手が決まらず収容頭数が減らない。

い。もっと基準をゆるめてどんな里子に出すべき」との意見を言われる方もあります。

ますが、貰われていくペット達が寿命をまっとうするまで家族の一員として飼って戴けるよう、少なくともアークにいるときよりは

幸せに暮らして欲しい、というのが我々の願いなので、希望

者に無条件で差し上げるとすることはしておりません。

里親探しの落とし穴

他の愛護団体に於ても、それぞれ経験豊かなベテランの方が担当されていると思いますのでまず心配は無いのですが、経験の浅い一般の方が情報誌などで里親探しをされる場合、是非とも注意しなくてはならない事項があります。それは、ペットを欲しいと言う人が必ずしも善意の里親希望者ではない、ということです。子供のおもちゃ替わりにとか倉庫の番犬に、また猫に使うからと紀州犬を所望する人もいます。アークではこのような場合すべてお断りしますが、もっと恐ろしいのは犬盗り・猫盗りの存在です。彼らは里親募集の広告を見て犬や猫を買い受け（だまし盗って）純血種はブリーダーに、他は三味線の皮や実験動物用として専門の業者に売ります。このような下請けに従事している人は一見動物好きで優しいような若い男女が多いのでつい信用してしまうのです。貰われた先でさぞ幸せに暮らしているだろうと思っていたら、教えられた住所も電話番号もすべてデタラメ、里親もペットも行方不明。どうしたらよいかと半狂乱になってアークに相談される方もあ

りますが、すべて後のまつり、どうしようもないのです。

この他にも世の中には、あちこちから犬を買い集めてきては虐殺している男性や、小さいうちは可愛いからといって子猫を買い、成猫になったら捨ててまた別の子猫を貰う、これを繰り返している若い女性など要注意人物が大勢暗躍しているという事実を頭に入れておいてください。

悲劇を避けるためには…

せっかく保護した動物を再び不幸な目に遭わさない為にはどのような点に注意すれば良いのでしょうか。

1. 住所・電話番号を確認し、(アークでは運転免許証を見せて載せます) ホームチェックの了解をとる。自宅を教えることを決める人は要注意です。

2. 希望する動物を取りに来てもらうのではなく、面倒でも相手の自宅まで届けること。同時に家族の様子や付近の環境などをよくチェックすること。

3. ペットの種類・体型・性別・毛色などを特に指定せず、どんなのもでもいいからとにかく早く渡してくれ、と引き取りを急がせる人。こちらの都合や時間帯を無視して早朝や夜遅く強引に、「今から買いに行く」等と言う人は疑ってかかるべきです。たとえその人物が「詐欺師」ではなくてもこのような人は里親として不適格です。

4. 情報誌などに「ペットの引き取り・里親探し引き受けます。ついては予防注射、ワクチン代など〇万円必要」というような広告が載ることがありますが、愛護団体を装った業者もいるのでこれも即信用しない方が無難です。

5. この他、成長しきっていない子犬や子猫を貰っていただく時には迷子にさせない様によく注意してあげてください。特に首輪やリボンをつけたまま飼い主の手を離れると非常に危険です。ペットが成長するに従って首輪で首が締まる状態となり、その動物にとっては命取りになります。また、不幸にも行方不明になった時のために電話番号などを書いた迷子札を付けることを徹底させる事も忘れずに。

これらの点を充分に考慮の上、ホームレスペット達に暖かい家庭を見つけてあげて下さるようお願い致します。

(次回は動物愛護と安楽死について。)

事前調査の重要性

アークでは里親希望で来苑された方には必ず動物との対面前に事前調査書をお渡しして、お住まいの形態(一戸建てかマンション、持家か借家)と見取り図(ペットを飼育される場所)、家族構成、ペット飼育経験の有無、ご家族の出産や転居予定の有無など、個人のプライバシーにかなり立ち入った内容を含む32項目の質問にお答え載っています。そしてその内容を検討してその里親さんに最も適当と判断した動物を2~3頭推薦し、その中から選んでいただく方式を採っています。ですから場合によっては希望されるのとは別のペットをお勧めすることもあります。例えば2ヶ月位の仔犬を希望されても、幼児がいたり昼間ほとんど留守というご家庭には成犬を薦めまじし、ハスキーや秋田犬など大型犬を飼いたいと言われる方でも主に世話をする人がお子さんであったり、また充分な飼育スペースがないお宅の場合にはもう少し扱い易い小~中型の犬を飼われるよう説得します。

この他、犬はつないで飼わない(敷地内が充分な広さのある囲いの中で放し飼い)、逃げ出さないように塀の高さや出入口の施錠の状態、ワクチン接種や健康管理、毎日の散歩とスキ